



## 追手門学院新キャンパス計画第2弾 新教育を実現する校舎 大学および中・高 校舎完成予想図を発表

昨年5月に公表した、学校法人追手門学院(大阪府茨木市、理事長:川原俊明)の大阪府茨木市における新キャンパス計画について、次世代型「新たな学び」の展開拠点~いつでもどこでも「学びあい、教えあい」・「自ら学ぶ」~を実現する、追手門学院大学と追手門学院中・高等学校の校舎の概要が固まりましたのでお知らせします。

追手門学院の新キャンパス計画は、茨木市の東芝大阪工場跡地の内の約 64,400 m<sup>2</sup>を確保し、近くにある追手門学院大学(以下、大学)の地域創造学部と国際教養学部の移転と全学部1年次生を対象とした初年次教育の拠点化、追手門学院中・高等学校(以下、中・高)の全面移転を行うもので、2019年4月開設を目指しています。これにより大学生約3,600人、中・高生約1,200人、教職員も含めると約5,000人が集う見込みです。

新キャンパスは2018年春開業予定のJR総持寺駅から徒歩約10分にあり、大学と中・高のある現在の茨木キャンパスからも2キロほどの所に位置しています。2キャンパスを一体的に運用することで学生の利便性を向上させるほか、大学の図書館等の施設を一般開放するなど地域の防災・交流拠点の創出、新しい教育・研究の実践の場を実現し、北摂地区における一大文教地区を誕生させます。

新キャンパスでは知識基盤社会への転換が進む現代に対応した新しい学びを実現する校舎を大学、中・高共に建設します。追手門学院では、校舎を単なる閉鎖的な教室の集合体ではなく新たな学びの空間と捉えます。「いつでもどこでも『学びあい、教えあい』・『自ら学ぶ』」という学生・生徒の主体的な学びを促進するため、廊下や開放的な図書館など教室外でも学び議論のできる空間を校舎全体で創出します。

キャンパスコンセプト:2キャンパス1サイト~北摂における一大文化創造地域の誕生~

教育コンセプト:次世代型「新たな学び」の展開拠点~いつでもどこでも「学びあい、教えあい」・「自ら学ぶ」~

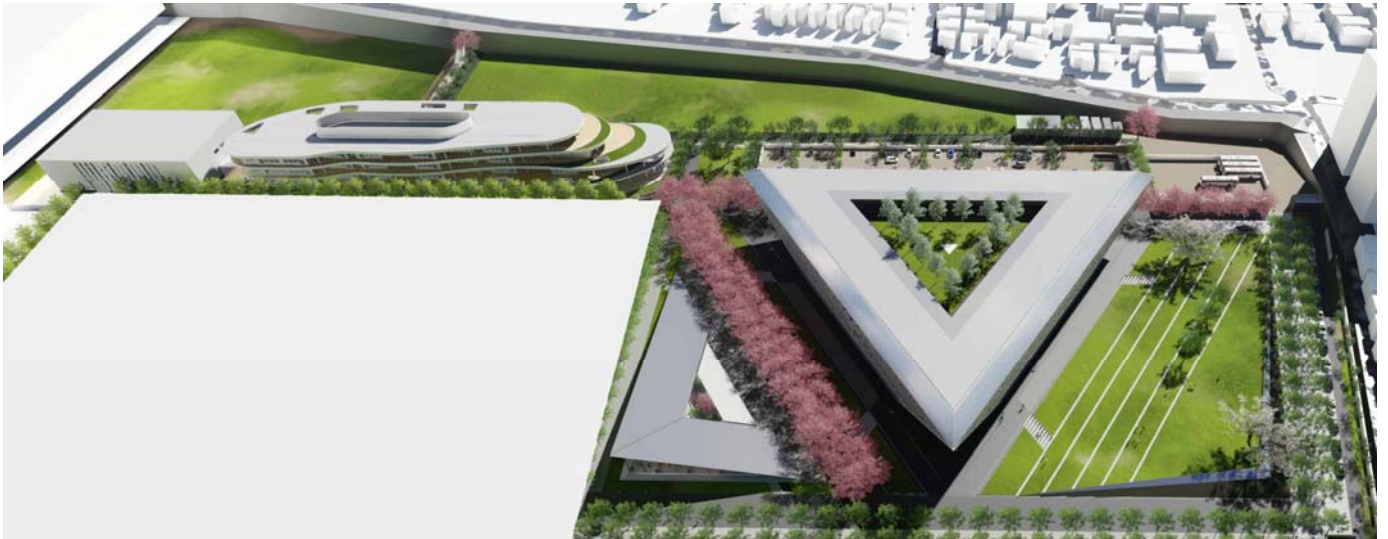
### 【ポイント】

- 2019年4月開設予定の追手門学院大学と中・高のキャンパスの校舎完成イメージを公表
- 大学は地域創造学部、国際教養学部が移転+全学部1年次生の拠点、中・高は全面移転
- 新たな学びを象徴し実現する教育環境として、大学は三角形、中・高は曲線を基調とした他に例を見ないデザイン

以下、校舎の完成予想図(パース図)と合わせてお知らせします。

大学公式ホームページ(<https://www.otemon.ac.jp/guide/campus/new.html>)でも公開中。

## 【追手門学院新キャンパス完成予想イメージ（パース図）】



上空から見た新キャンパスイメージ(左：中・高校舎 中央：食堂 右：大学校舎)



上空(南西)から見た新キャンパスイメージ(奥：中・高校舎 中央：食堂 手前：大学校舎)



# 大学



南(総持寺駅)側の横から見た大学校舎のイメージ

# 中・高



中・高 校舎のイメージ

## 【追手門学院新キャンパス概要】

住 所：大阪府茨木市太田東芝町 400 番 6

敷地面積：約 64,400 m<sup>2</sup>

建築面積：大学校舎約 6,800 m<sup>2</sup>、中・高校舎約 5,700 m<sup>2</sup>、  
他に食堂棟約 1,300 m<sup>2</sup>

延床面積：大学校舎約 20,000 m<sup>2</sup>、  
中・高校舎約 14,000 m<sup>2</sup>、他に食堂棟約 1,000 m<sup>2</sup>

総事業費：約 220 億

開設予定：2019 年 4 月

移転概要：追手門学院大学の地域創造学部および国際教養学部が移転＋全学部 1 年次生の初年次教育の拠点 約 3,600 人、追手門学院中・高等学校の全面移転 約 1,200 人、教職員を含めると約 5,000 人が集う一大文教地区が誕生。



### (1) 大学 校舎 鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造 5 階建

○教室や自習室に限らない、いつでもどこでも学べる教育環境

○図書に囲まれた学習空間の創出

○建物外でも学べる空間づくり

大学の校舎は鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造地上 5 階建 1 棟で、2018 年の追手門学院創立 130 周年にちなみ 1 辺が 130 メートルの正三角形を基調とし、新教育を象徴する逆三角錐のデザインです。甲子園球場に相当する規模で、他に例を見ない校舎です。

1 階は自習や発表の場を兼ねた 1,000 人規模のホール、学生との議論や教員同士での議論ができるラーニングスペースなどです。図書館は 3 階と 3.5 階の中央部でそれを囲むように中小の教室を配置します。10 万冊を配架し、3 階は議論もできる図書室、3.5 階は静かに自習する図書室とし、構想段階ではありますが、図書館外の壁面にも図書を並べて 100 万冊の図書に囲まれた学習空間の創出を検討しています。また、通常の 3 倍にあたる 3.8 メートル幅の廊下にもデスクを置き、Wi-Fi 環境を完備します。

### (2) 中・高等学校 校舎 鉄筋コンクリート造 4 階建

○未来の教育を見通した「新たな学び」＝「授業＋3 つの学び方(個別型・協働型・プロジェクト型)」を校舎全体で実現

○多用な力を伸ばす「新たな学び方」に応じてアレンジできる学習スペース

○図書スペースを 1 階から 4 階の各階に配置

中・高等学校の校舎は鉄筋コンクリート造地上 4 階建で、曲線を基調としたデザインです。「脱教室」、「脱図書室」をテーマに各階に図書スペースを設けたほか、自習にも利用できるラーニングスペースを囲んで 5 つの教室を配置し、学びに応じて教室と自習スペースの間の仕切りを取り外して一体的に使用することもできます。生徒の多様な力を伸ばす「新たな学び方」に応じて「教室の形」を変えることができます。

※写真データの提供を希望される場合は、別途送付しますので問い合わせください。

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 谷ノ内・足立